

豊富タンチョウ勉強会

～宗谷にやってきたタンチョウ～

2020年12月19日(土) 14:00-16:00

サロベツ湿原センター 天塩郡豊富町上サロベツ 8662

主催 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

協力 日本野鳥の会道北支部

開会

14:00

オンライン準備

・挨拶 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク 代表理事吉村穰滋

講演

14:05-14:40

『タンチョウの生態とサロベツ・稚内・浜頓別での繁殖状況』

長谷部真(サロベツ・エコ・ネットワーク)

14:40-15:05

『猿払村におけるタンチョウの繁殖状況』

小俣孝範(日本野鳥の会道北支部)

15:05-15:30

『枝幸町のタンチョウ 193 番家族の暮らし』

村山良子(日本野鳥の会道北支部)

15:30-15:35 休憩

15:35-16:00

座談会:宗谷のタンチョウとこれから 小俣孝範 村山良子 長谷部真

閉会 16:00

講演要旨

タンチョウの生態とサロベツ・稚内・浜頓別での繁殖状況

長谷部真

(NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

タンチョウは中国東北部と沿海州で繁殖し、朝鮮半島と中国東部で越冬する。日本では唯一繁殖するツルの仲間で、北海道の湿原の主にヨシ原で繁殖し 1-2 個の卵を産む。幼鳥は孵化後 5 日ほどで歩けるようになり秋には飛べるようになる。タンチョウは江戸時代には本州・九州・四国で冬鳥としての記録があったが、明治時代以降絶滅したと考えられていた。1924 年に釧路湿原で再発見され、その後特別天然記念物に指定され、給餌や保護増殖事業が行われた結果、2018 年には 1800 羽までに回復した。近年では根室地方や十勝地方を中心に、一部で網走地方、日高地方まで繁殖分布が広がっている。道東地方ではタンチョウの増加に伴い事故や農家との軋轢が生じているため、環境省ではタンチョウの繁殖地の分散を推進している。

宗谷地方では 2002 年にサロベツで初めてタンチョウの越夏が、2004 年には繁殖が確認された。その後、浜頓別町で 2008 年、猿払村で 2009 年、稚内市で 2015 年、枝幸町で 2019 年に繁殖が確認された。道北地方では春にタンチョウが道東地方より飛来し、春から夏にかけて繁殖し、秋にデントコーン畑や牧草地に現れ、初冬に道東地方に向かう渡りを行うと推定されている。

2020 年に私たちは環境省事業および経団連自然保護基金の助成金を利用して、ドローンを用いたタンチョウの繁殖状況調査、個体数調査を行い、鳥類関係者から情報収集を行った。調査の結果、サロベツで 7 つがい、稚内市で 1 つがい、猿払村で 6 つがい（小俣孝範氏より）、浜頓別町で 1 つがい（小西敢氏より）、枝幸町で 1 つがい（村山良子氏より）の合計 16 つがいを推定し、幼鳥を合計 6 羽、亜成鳥を合計 3 羽確認した。サロベツでは 7 つがいを確認し、2 つがいから幼鳥をそれぞれ 1 羽確認し、亜成鳥を 1 羽確認した。稚内市では、1 つがいと亜成鳥が確認されたが、幼鳥は確認されなかった。浜頓別町では 1 つがいが確認され、雛が 1 羽確認された。秋には親子（雛 1 羽）が確認され、成鳥 17 羽、亜成鳥 1 羽を合わせて、宗谷地方で最多となる 19 羽が確認された。浜頓別町では渡り経路の解明のため、2020 年 11 月に成鳥の捕獲を試みており、2021 年も継続して行う予定である（小西敢氏より）。道東地方ではタンチョウの列車事故や感電事故が記録されているが、宗谷地方でも 2017 年に豊富町で幼鳥の感電事故が初めて発生した。

ドローン調査は湿原内のタンチョウの巣、親子、ねぐら等を短時間で確認可能な調査手法であるが、ドローンの飛行時間の制限により、広範囲の探索や離着陸地点から離れた場所の探索には向いていない。目視調査と情報収集を合わせて実施することにより、繁殖地探索や巣立ち雛数を推定するのにより有効な手段となる。サロベツでは 2021 年も継続して調査を行うほか、浜頓別町と同様に捕獲調査を行う予定である。また、今後はサロベツ湿原センターでの普及啓発のために、タンチョウのパンフレット、ステッカー、ぬいぐるみ等を制作する計画である。

猿払村におけるタンチョウの繁殖状況

小俣孝範

(日本野鳥の会道北支部)

1. 2020年のタンチョウの出現状況について

2020年4月～9月までの上半期期間中に、猿払村内で確認されたタンチョウの紹介と、営巢の可能性があるエリア及び周辺環境について報告します。

タンチョウの目撃地点や、営巢の可能性があるエリアについては、今後の本格的な調査に期待する意味をこめて報告したいと考えています。

2. 猿払村内で確認された野鳥について

村内では、野鳥の観察や調査が本格的に行なわれたことはないと思われま

す。ここ数年の間で確認された中でも、飛来数が少ない、或いは珍しいと思われる種を紹介します（20種程度）。あくまで、私の活動範囲内での確認なので、十分な報告とはなりません

が、情報提供ということでご理解いただきたいと思

枝幸町のタンチョウNo.193 家族と暮らし～想定外の地からの報告～

日本野鳥の会道北支部

村山 良子

2016年に枝幸町で標識されたタンチョウのつがいが確認されました。各地域の観察記録により、この個体は2013年に鶴居村で生まれ、弟子屈町、豊頃町、遠軽町、紋別市コムケ湖で確認された後に、枝幸町にやってきたことがわかりました。枝幸町では2002年以降断続的にタンチョウの目撃記録はありましたが、いずれも移動個体でした。このつがいは2016年以降越夏するようになりました。2019年には幼鳥1羽が初めて確認されました。そして、2020年には幼鳥2羽が確認されました。